

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム みんなの家
所在地 (県・市町村名)	登米市
記入者名 (管理者)	及川 美恵子
記入日	平成 20年 1月 5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開所前にみんなでBS方を使い作ったものである。	将来自分が住みたいと思う施設をイメージ
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月曜日の朝の打ち合わせのときにみんなで復唱している。	左に同じ
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域交流会や夏祭りを開催し、地域の方々に施設の役割や理念を伝えている。	玄関に誰でも見れるように掲げている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出掛けたとき積極的に挨拶をした話をするようにしている。	季節の野菜を持ってきてくれる人が多くなった。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のごみ拾いや、健康教室にも参加している。近くの小学校の運動会や学習発表会を見に行ったり学校帰りの子供たち数人が夕方まで過ごしていつている。	学童クラブ 小学3年生 3名

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の様々な研修会や会合に参加している。小学校の夏休みの行事を利用して施設を開放し「ぼくのおじいちゃん」という認知症になったおじいちゃんを題材にしたビデオを見てもらったりした。電話や来所しての相談にも応じている。		ホームヘルパー資格取得のための実習受け入れ、その他高校生のボランティアの受け入れも実施している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を説明し、全職員で行いサービスの質の向上に努めている。		全職員で自己評価実施
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価の結果を公表し今後の取り組みや改善経過を会議ではお知らせした。また前回の検討事項についても経過や取り組み状況を報告意見をいただくようにしている。		偶数月15日に開催
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題の中には市の担当者と協議しなければいけないことがあるのでその都度相談している。		医療連携体制加算の申請にかかわることなど
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1名成年後見制度を活用している。		社会福祉士が後見人になっている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の後の施設内研修会で学ぶ機会を得ている。また市で開催している研修会等にも積極的に参加している。		出来るだけ多くの職員に研修会に参加してもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約するまでに本人、家族の方の見学や体験利用していただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に出来るだけ寄り添うことを基本にして話し合う機会を多く持っている。	運営推進会議に3名の方メンバーに入っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回みんなの家通信発行、その際、担当者からの一言の欄に状態を記入し送っている。金銭台帳は請求書と一緒に送っている。	通信のほかに行事で取った写真も同封している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など気軽に話せる雰囲気づくりをしている。	面会者名簿と一緒にお茶を出したりして雰囲気づくりをしている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、全体会議で意見を聞くようにしたり施設長による面談もある。	スタッフ会議毎月10日、全体会議月の末日に実施
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や行事に合わせた勤務体制をとっている。	併設施設と協力
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間の異動がある。常になじみの関係づくりをするために朝晩の挨拶や話しかけは多くしてもらうようにしている。	新しい職員に対しては利用者にきちんと説明し利用者から教えてもらうような工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修会には順番を決めて参加してもらっている。	グループホーム連絡協議会や市での主催する研修会に参加、その他にも個人的に希望の研修会には参加してもらっている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しているので研修の機会が多くあるので参加している。	交換研修には3名参加、他の施設体験をすることで刺激になった
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	研修会に多く参加、同じ悩みの解決になったり、自分たちがしていることの自信にもつながっていると思う。	2ヶ月に1回食事会の開催あり
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長及び管理者は職員と同じ目線で物を見ることにしている。	休憩時間や時間外にはお茶を飲んだり本を読んだり共通の話題を見つけ話をしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にケアマネージャーから情報をもらい、デイサービスやショートステイを利用してもらい本人の身体状況や思いに向き合い、職員とのなじみの関係を作る。	体験利用をしてもらう。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人はもちろん家族にも施設の見学を必ずしてもらい、これまでの経過や悩みを聞いてあげる時間をとっている。	本人も家族も安心して過ごしてもらいたいため。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを汲み取り状況を確認し、早急な対応が必要なときは柔軟な対応をしている。		介護110番を目指している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人はもちろん家族にも施設の見学を必ずしてもらい、施設の雰囲気や職員とのなじみの関係を作る。		体験利用の進め
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に介護する側介護される側と分けることなく共に生きるを基本におき色々な場面で利用者から教えてもらう場面づくりをしている。		泣いたり笑ったり同じ時をすごすようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを細かく伝えるようにしている。緊急時の電話はもちろん、面会時など話をする機会を多く持っている。月1回の「みんなの家」通信で本人の様子を知らせるようにしている。		体調不良や経過、細やかに電話で報告、信頼関係を築くようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外泊、外出など家族の思いを汲み取り、また行事に誘ったりしながらよりよい関係が築けるようにしている。		遠出するときは誘いの電話をしている。お土産を買い自宅に届けたり面会要請している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに友達が利用していたなら一緒にすごしてもらったり、これまで利用していた美容院やお店に出掛けてもらうようにしている。		デイサービスで地域の方々との交流の場になり楽しみになっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	料理づくりや後片付けなどその人が出来ることを見つけてあげ、各自協力し助け合いながら一つのことを成し遂げる努力をしている。毎日のお茶の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。		利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役になっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移った方がいるが職員は面会に行ったり電話で様子を聞いたりした。		今後も継続していく
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、今何を求めているか知る努力をしている。	○	一部の利用者の意見や考え方で決めることがあるので「本人はどうか」を話し合って行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	世間話の中から昔の話が出るような話題づくりをし、それを書類にして共通の認識が持てるようにしている。		センター方式アセスメントシート活用
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の変化に注意し、細かいことでも職員間で報告し合い把握に努めている。		細やかな情報交換、連絡ノート活用
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含めモニタリングやケアカンファレンスを行っている。		モニタリング毎週水曜日、ケアカンファレンス毎週金曜日、その他必要時
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い計画の遂行状況、効果など評価している。		3ヶ月に1回及び状態変化の時

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録や個人記録表に食事量、排泄等本人の状況を記入、また本人の言葉やエピソードを記録し情報を共有している。また連絡ノートにより申し送りの徹底を図っている。出勤時には必ず目を通すことになっている。		業務日誌から転記 毎日のケース記録記入 日中、夜間
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用の方の時間延長利用やショートステイ利用者の方には交流の機会が持てている。医療連携加算導入、利用者のや家族の安心感を得た。		通所介護、短期入所生活介護事業所併設
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々に歌や踊り交流会等で着ていただくことが多くあるので賑わいを感じられる。年二回以上消防署立会いでの避難訓練実施。地域の方々にも参加協力を得ている。		多くの方の出入りがある
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域で開催している健康教室に参加したりして地域の方々との交流の場になっている。		転倒予防体操、骨粗しょう症について
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき情報交換や協力関係を築いている。		2ヶ月に1回開催、
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での協力医の他に利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるように家族と協力している。		市立佐沼病院1名、おたおたにクリニック1名

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院の先生が認知症の方に熱心で本人が安心してのように話を聞いてくれたり、適切な指示や助言をしてくれている。		佐幸医院
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が職員として配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		グループホームに1名、デイサービスに1名配属
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージが大きくそれを防ぐため職員が見舞いに行ったり家族と情報交換して施設内で対応可能な段階で早期に退院できるように支援する。		不穏状態になり廊下徘徊、点滴自己抜去。家族と相談。早い段階での退院になった。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りに関する指針を作成し全家族から同意をいただいて、施設で対応し得る最大のケアの説明をしている。		同意を得ている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切に家族と話し合い安心して終末期を過ごせるように取り組んでいる。	○	協力医とは口頭での話し合いはできているが文書にてはまだである
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの継続性が保つように使い慣れたベット、タンス、写真などをおいている。		家族に説明、協力してもらう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまな介護をしないなどスタッフ会議などで確認している。	左に同じ
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	世間話などから話題を見つけそこから本人が望むことを知り、ゆったりと接し時間をかけて話を聞いてあげ納得して生活できるように支援している。	何回か繰り返し話をする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切ったすごし方はしていない。その人の体調や天候などで柔軟に対応している。	○ 希望に添えない場合や職員に都合に合わせてしまうこともある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服については自分で着たい服をできるだけ選んでもらうようにしている。美容院も今まで行った所に行ってもらうようにしている。	家族にも協力してもらう。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員と一緒に食事の準備、配膳、片づけを行っている。また嗜好調査を行い献立に入れている。	片付けは2班に分かれ、茶碗洗う方、お盆を拭くほうに分かれ出番を多くしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつの飲み物は好きなものを自由に飲んでもらっているし、お菓子類も数種類の中から選んでもらっている。飲酒についても誕生会や特別な日にはみんなで飲んで楽しんでいる。	タバコを吸う人はいない

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。		1名の方のみオムツ使用、3名の方トイレ誘導
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により夜間入浴も実施している。		全介助者の方は隔日入浴になっているが本人の希望も聞いている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないようなときはリビングのコタツで温かい飲み物を飲んでもらったり話をしたりして安定を図り休んでもらう。		帰宅願望が強く不安定
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所の手伝いなどその人が出来ることを把握し役割を決めて行ってもらっている。その季節に合わせて外出の機会を得ている。		野菜の下ごしらえ、ほぼ全員がする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる人やいくらか持っていないと安心できない人には家族と相談して持ってもらっている。自分で買い物の楽しみが味わえるように外出したときにはお土産の買い物ができるように支援している。		小遣い2千円を渡しお土産を買う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物、散歩、ドライブに出掛けている。	○	実家に行ったりお墓参りなども計画したい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	マイクロバスを借りてみんなで定義山まで遠出をした。その際家族にも声がけしている。	○	計画を早めに立てて多くの家族の方に参加してもらいたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけたり取次ぎはしている。	○	手紙を書いたりできるよう支援したい。絵手紙教室を考 中
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に規制はなくいつでも訪問できるようにし、くつろいでい ただために部屋やショートのリビングなど開放している。		他の利用者に気兼ねないように気をくばる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	高齢者権利擁護や身体拘束に関する勉強会を行っている。 申し送りでも確認している。研修会等にも参加している。		月1回の施設内研修
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。一人一人の状態や気分を細かく 観察してさりげなく声をかけて安定を図ったり、また出そうに なったときは一緒に外に行ってみる。		左に同じ
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している	日中はさりげなく把握し、夜間は睡眠の妨げにならないように 見回りし確認している。		個別ケア実施、
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組 みをしている	利用者の状況に照らし合わせながら管理したり使ってもら たりしている。。		はさみ、包丁、針使っていただいている。使い終わった後 の管理の徹底
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	予測される危険を検討し未然に防ぐ努力をしている。ヒヤリ ハットの活用、		歯がない方には刻み食の提供、床は水のこぼしや汚れは ないか、廊下には歩くのに邪魔なものはないかなど整理整 頓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て応急手当の講習会を実施、全職員が対応できるようにしている。	利用者も一緒に参加
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回の防災訓練、年2回の消防署立会いの避難訓練、夜間避難訓練を実施している。運営推進会議を通して地域の協力も呼びかけている。	地域防災マップ作成中
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	できるだけ自由に生活出来るように支援している。	その人らしい暮らしを支援
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや体調の変化を見逃さず早期対応に努めている。変化に気づいたならすぐに看護師に連絡、指示を受ける。	左に同じ
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などファイルになっていつでも見られるようになっている。服薬の支援と症状の確認に努めている。	左に同じ
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方のカンファレンスを行い原因や予防の対応のための飲食物の工夫に取り組んでいる。	牛乳の代わりにヨーグルト提供、水分補給強化のため湯飲み茶碗を大きいのにしている。排便の確認
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけをおこない、出来ない人に対しては介助し口腔内清掃に努めている。一人一人にあった対応をしている。	夜間ポリドントにて消毒

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作成で季節に応じた適温での食事提供となっている。食事量のチェックも行っている。		個人記録表に記録
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内で起こりうる感染症について細かくマニュアル作成し全職員で学習して予防に、対策に取り組んでいる。		インフルエンザ予防注射利用者職員全員接種
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎晩漂白して清潔に心がけている。新鮮で安全な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花壇やプランターをおき明るい雰囲気になるようにしている。		正面玄関があり来客者のほとんどはそちらを利用している。グループホームの玄関は利用者の方の出入りに多く使用している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンで常に魚の焼ける臭い、まな板で野菜を切る音などしており生活感が漂っている。庭には草花を生けて季節感を味わっている。		普通の生活状況を意識している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き一人でくつろいだり、利用者同士で語り合い思い思いに過ごせるように工夫している。		左に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長い間使ったタンスを持ち込み家族の写真を飾り居心地のいい空間を作る工夫をしている。		左に同じ
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	いつでも、どこでも一定の温度になるようにタイマーで管理。24時間給排気扇設置している。		居室内温度18度から20度に設定
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー、手すりや浴室トイレ、廊下の居住環境を整えている。		左に同じ
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって混乱が招くようなところは職員も一緒に確認し話を聞いてあげる努力をしている。		出来ること出来ないことを知る
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチをおき、外でお茶を飲んだりできる工夫をしている。花壇や畑をつくり季節感を味わっている。		外には愛犬(ブッチ)もいる

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

デイサービス、ショートステイが併設されていることで多くの方と交流でき、気分転換になっている。またデイホールではイベントが開催され地域の方々との交流も盛んである。また、学童クラブとして小学生が学校帰りに寄りお母さんが迎えに来るまで遊んでいる。「ただいま」「おかえり」と利用者との交流もある。そのことから運動会や学習発表会にも招待され見に行き応援してきている。とてもにぎやかな施設である。